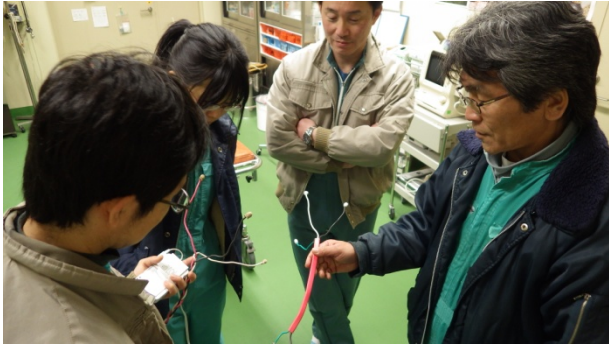


日本学術振興会博士課程教育リーディングプログラム
「霊長類学・ワイルドライフサイエンス・リーディング大学院」
による派遣研究者研究報告書

平成 26 年 3 月 24 日	
所属部局・職	京都大学霊長類研究所・技術職員（獣医師）
氏名	兼子明久

1. 派遣国・場所 （〇〇国、〇〇地域）
日本（熊本県）
2. 研究課題名 （〇〇の調査、および〇〇での実験）
チンパンジーの獣医学研修並びに施設見学
3. 派遣期間 （本邦出発から帰国まで）
平成 26 年 3 月 9 日 ～ 平成 26 年 3 月 12 日（4 日間）
4. 主な受入機関及び受入研究者 （〇〇大学〇〇研究所、〇〇博士／〇〇動物園、キュレーター、〇〇氏）
熊本サンクチュアリ、鶴殿俊史氏（獣医師）／熊本市動物園、福原真治氏／阿蘇カドリードミニオン、宮沢厚氏
5. 所期の目的の遂行状況及び成果 （研究内容、調査等実施の状況とその成果：長さ自由）
<p>本出張はチンパンジーの獣医学的管理や飼育施設の運営・管理を学ぶために、熊本県にある京都大学野生動物研究センター熊本サンクチュアリ（以下 KS）をメインの訪問先とし、県内の熊本市動物園と阿蘇カドリードミニオンにも訪問し、チンパンジーの飼育施設の見学や飼育スタッフとの意見交換をおこなった。熊本サンクチュアリでは鶴殿俊史獣医師の下、毎日のルーチン作業の見学、症例検討、過去の解剖記録の検討など獣医学的な業務の研修を受けた。野上悦子技術職員には、新設されたチンパンジーの大型ケージの説明や環境エンリッチメントの実践や検査業務のノウハウを教えて頂いた。また平田聡教授には、先日 KS に新たに導入されたボノボの施設やボノボたちの認知トレーニングを見学させて頂いた。また、同教授にはチンパンジーの無麻酔下での心電図計測トレーニングや複数個体同時の認知トレーニングなども見学させて頂いた。熊本市動物園やカドリードミニオンではチンパンジーの施設見学の他、霊長研でのノウハウを伝えることで、より良い飼育管理を実践できるよう意見交換を積極的におこなった。</p> <p>今回の出張を機に、チンパンジーの獣医学的検査項目（血液検査の項目、麻酔時におけるエコー検査などの検討）の見直しや、KS と共通のデータを管理できるようにし、これからの管理に役立てることを始めている。さらには使用する検査機器や手法についても統一をはかり、得られたデータを価値あるものにしていくことも進めている。また飼育管理については人間側が動きやすい、安全な運営ができるような飼育を目指すことが、後に飼育される動物にとってもメリットのあるものであるという認識を持つことを改めて感じることができた。それを踏まえ、今後のチンパンジーやマカクの飼育にも役立てていきたい。</p>

日本学術振興会博士課程教育リーディングプログラム
「霊長類学・ワイルドライフサイエンス・リーディング大学院」
による派遣研究者研究報告書



携帯心電図の自作電極の作り方講習



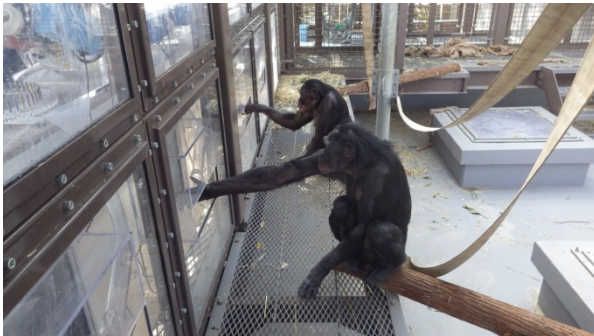
平田教授による心電図計測の見学



空間利用が十分にされている飼育エリア



ひな祭り会の様子



ボノボの認知実験の様子



チンパンジーグループの認知実験の様子

6. その他 (特記事項など)